

ワーク・ライフ・バランス社会の実現と課題

著者	高林 知佳子
雑誌名	新潟日報 上越かわらばん
巻	472
ページ	2-2
発行年	2012-11-04
URL	http://hdl.handle.net/10631/1043

と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を制定しました。

日本のワーク・ライフ

少子高齢化が進み、人口が減少していけば、こととして語られることがありますが、ワーク・ライフ・バランスは少子化対策として語られることがありますが、ワーク・ライフ・バランスは少子化対策が直接の目的ではありません。ですが、ワーク・ライフ・バランスは少子化対策が直接の目的ではありません。

見直すことが必要になり、少子化が改善されることは期待できます。

ちなみに、この「ワーク・ライフ・バランス」ですが、仕事を一生懸命頑張りたい人や、家族との時間を大切にしたい人など、人によって何が重要になるかは異なります。

ワーク・ライフ・バランスとは、仕事(ワーク)を充実させつつ、生活(ライフ)とのバランスをう。

県立看護大学 地域生活看護学領域
地域看護学 准教授
高林 知佳子

ワーク・ライフ・バランスは少子化対策として語られることがありますが、ワーク・ライフ・バランスは少子化対策が直接の目的ではありません。ですが、ワーク・ライフ・バランスは少子化対策が直接の目的ではありません。

まく図りながら人生を過ごすこと

ワーク・ライフ・バランス社会の実現と課題

自分の望むバランスで、仕事と仕事以外の生活に取り組み、子供と趣味

という考え方を基本とし「ス」という、働く女性の「仕事」と子育てや育児サポート制度が始まりといわれています。こまきます。また、労働人口の減少により、多くの人が経済的に自立できなくなる可能性があります。多くの人が経済的に自立できなくなる可能性があります。多くの人が経済的に自立できなくなる可能性があります。

「仕事」と子育てや育児サポート制度が始まりといわれています。こまきます。また、労働人口の減少により、多くの人が経済的に自立できなくなる可能性があります。多くの人が経済的に自立できなくなる可能性があります。多くの人が経済的に自立できなくなる可能性があります。

府が中心となり、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」は、これまでの働き方をワーク・ライフ・バランス

府が中心となり、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」は、これまでの働き方をワーク・ライフ・バランス